

## 2010年の江別コロニーにおけるアオサギの営巣状況について（概要版）

### 調査の目的

江別コロニーの営巣規模、営巣時期、繁殖成績を明らかにするとともに、河川敷に設置したロープ（コロニーへの人の接近防止用）の効果を検証する。

### 調査方法

3月4日から8月9日まで、1～5日間隔で計48日間、コロニー対岸の河川敷から巣ごとの営巣状況をモニタリングした。

### 結果と考察

#### 1. 営巣規模について

営巣活動を169巣で確認した。枝や葉に隠れて見えない巣がある可能性はあるが、巣がつくられる時期のコロニーの視認性は良好であり、見落としがあるとしても数巣だと考えられる。営巣規模はここ3、4年は毎年170巣前後で推移しており、営巣規模は安定しているといえる。

#### 2. 繁殖時期について

3月中旬にコロニーでの営巣を初めて確認した。その後、4月下旬に最初のヒナを確認し、6月中旬に最初の巣立ちを確認した。8月1日の時点でコロニーには十数羽のヒナが残っていた。この後、1週間ほどでコロニーからサギの姿は見られなくなった。

2009年に比べると営巣開始、終了とも10日ていどの遅れが見られた（例年との比較については過去のデータの解析が必要）。

#### 3. 繁殖成績について

巣立ち近くまでヒナの様子を追うことができたのは48巣であり、平均2.77羽のヒナが巣立ちに成功した。巣ごとのヒナ数の内訳は、4羽が6巣、3羽が25巣、2羽が17巣であった。なお、巣立ちヒナ数の平均値にはヒナ数0の巣、すなわち営巣が途中で放棄された巣のデータは含まれていない。巣立ちヒナ数は道内のアオサギのものとしては平均的な水準であった。

#### 4. ロープ設置の効果について

コロニー内を、安全箇所（巣と対岸の河川敷との距離が遠く人の影響が小さいと考えられる箇所、全44巣）と、危険箇所（巣と対岸の河川敷の距離が近く人の影響が大きいためと考えられる箇所、全12巣）に分け、それぞれの営巣状況を比較した。その結果、安全箇所で営巣を途中で放棄した割合が9.1%（4巣）だったのに対し、危険箇所で放棄した割合は33.3%（4巣）となった。安全箇所は危険箇所と比べ観察時の視認性が悪く放棄されたことが確認できないことがあるため、放棄の割合が過小に評価されている可能性

がある。また、危険個所の標本数も少なく、今回の結果だけから危険個所の放棄率が高いとは一概に言えない。しかし、危険個所は以前から多くの巣が放棄されるのが観察されており、今回もその傾向に変化が無かった可能性はある。実際、筆者は今年5月30日に危険個所の正対岸にぎりぎりまで近付いて写真撮影する人を目撃したことがあり、このときは、危険個所の巣のうちの1巣で親が巣を離れヒナがカラスに捕食されている。

今回の結果だけからロープの効果を判断するのは時期尚早であるが、筆者が見たところではほとんどの観察者はロープより堤内側に留まっており、ロープが張られておらず川の縁まで接近する人の多かった昨年までと比べると、アオサギのストレスはかなり減ったものと思われる。しかし、5月30日の目撃例のように、ロープの存在を無視しコロニーに近づく人が一人でもいるとアオサギの営巣に決定的なダメージを与えることになる。今後はこうした人をどのように規制するか、ロープ以外にも効果的な対策を考える必要があると考える。